

**製品名: Lck BP-1 (リン酸化Tyr397) ウサギポリクローナル抗体**

**カタログ番号: APRab04948**

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	55kDa

## 抗原情報

遺伝子名	HCLS1
別名	HCLS1; HS1; Hematopoietic lineage cell-specific protein; Hematopoietic cell-specific LYN substrate 1; LckBP1; p75
遺伝子 ID	3059.0
SwissProt ID	P14317
免疫原	抗血清は、ヒト HS1 の Tyr397 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 366-415

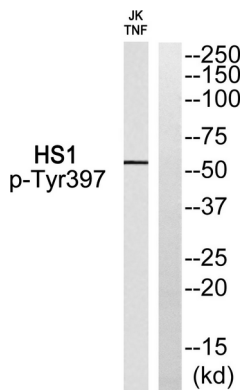
## 背景

発生段階: 骨髄球系および赤血球系分化の初期段階で発現する。機能: 抗原受容体共役チロシンキナーゼの基質。リンパ球系細胞におけるクローン増殖と欠失の両方に対する抗原受容体シグナル伝達において役割を果たす。遺伝子発現の調節にも関与している可能性がある。PTM: LYNによってリン酸化され、B細胞表面IgMの架橋後速やかにリン酸化される。類似性: 1つのSH3ドメインを含む。類似性: 4つのコルタクチンリピートを含む。サブユニット: LCKのSH2およびSH3ドメインと結合する。LCK SH3ドメインへの結合は恒常的に起こるが、LCK SH2ドメインへの結合はTCR刺激時にのみ起こる。LYNでも同様の結合パターンが観察されたが、FYNでは見られなかった。FYNでは、TCR刺激時にFYN SH2領域が結合するが、TCR刺激にかかわらずFYN SH3領域は結合しない。HAX1のC末端領域に結合して直接関連します。HS1BP3と相互作用します。組織特異性:造血起源の組織および細胞でのみ発現します。発生段階:骨髄球系および赤血球系分化の初期段階で発現します。機能:抗原受容体共役チロシンキナーゼの基質です。リンパ球系細胞におけるクローン増殖および欠失の両方に対する抗原受容体シグナル伝達において役割を果たします。遺伝子発現の調節にも関与している可能性があります。PTM:B細胞表面IgMの架橋後、LYNによってリン酸化されます。類似性:1つのSH3ドメインを含みます。類似性:4つのコルタクチンリピートを含みます。サブユニット:LCKのSH2およびSH3ドメインに関連します。LCK SH3ドメインへの結合は恒常的に起こりますが、LCK SH2ドメインへの結合はTCR刺激によってのみ起こります。LYNでも同様の結合パターンが観察されましたが、FYNでは見られませんでした。FYNのSH2領域はTCR刺激によって会合しますが、FYNのSH3領域はTCR刺激にかかわらず会合しません。HAX1のC末端領域に結合して直接会合します。HS1BP3と相互作用します。組織特異性:造血系由来の組織および細胞でのみ発現します。

## 研究分野

タイトジャンクション;病原性大腸菌感染症;

## 画像データ



HS1 (リン酸化 Tyr397) 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンは HS1 (リン酸化 Tyr397) ペプチドでブロッキングされている。